

ISSN 2185-7474

国際子ども図書館 の 窓

子どもの本は
世界をつなぎ、
未来を拓く！

第 17 号

2017. 09

表紙デザイン：熊谷博人氏

はじめに



今年もまた『国際子ども図書館の窓』をみなさまにお届けいたします。第17号では、平成28年4月から平成29年3月までの活動を御紹介します。

今年度はリニューアル作業のため休止あるいは縮小していた講演会、研修、展示会等は再開しました。新しい資料室も開設しました。長い時間と多くの労力をかけたリニューアルが、皆様にどう評価されるか、われわれ職員にと

っては、緊張と不安があった1年でした。

幸いなことに、1年間の利用者数は約12万人とその前の年から2万人増えました。講演会や研修への参加者数も高い水準を維持しています。本当にありがとうございます。

また、国際子ども図書館は、来館される図書館利用者に対してサービスを行うとともに、児童サービス従事者あるいは広く「子どもに本を手渡す大人」に対してもサービスを行っています。国際をその名に冠する国立図書館として全国に対して、世界に対してもサービスや情報発信を行っています。

『窓』は、そういったことも含めた昨年度の国際子ども図書館の活動全体が俯瞰できるようになっています。

もとより不十分な点や未熟な点、未着手な領域等々あろうかと思いますが、そういったことも含めて、ご意見、ご感想をお寄せいただければと思います。

現状が現状であるのはそれなりに理由がありますが、一方でずっと同じ地点に立ち止まり続ける理由もありません。我々を取り巻く制約を少しずつ広げ、これまで応えることができなかった要望に少しでも応え、変りゆく世界に対応していくためには、利用者の皆様の御意見がとても大事です。

さて、この『窓』も今回からリニューアルしました。これまで発行していた冊子体を廃止し、ホームページに掲載する電子版のみとしました。また、ホームページが充実し、基本文書、調査報告、研修資料等が掲載されるようになったことから、『窓』は活動報告中心のものとなりました。

今後とも温かくそして厳しく我々を見守っていただければと思います。

平成29年9月

国立国会図書館国際子ども図書館長 本吉 理彦

国際子ども図書館の窓 第17号

<目次>

【はじめに】

【活動報告】

1. 児童書専門図書館としての活動
 1. 1. 資料・情報センターとしての機能
 1. 2. 子どもの読書活動推進の支援
 1. 3. 国際的な交流活動
2. 子どもと本のふれあいの場としての活動
 2. 1. 子どもの成長段階に応じた館内サービス
 2. 2. 子どものための連携イベント
 2. 3. 子ども向けの情報発信
3. 子どもの本のミュージアムとしての活動
 3. 1. 館内展示
 3. 2. 電子展示会
4. 内外諸機関との連携・協力・広報活動等
 4. 1. 講演会
 4. 2. 広報活動
 4. 3. 関係者会議
 4. 4. 見学・案内
 4. 5. 刊行物

【平成28年4月から29年3月までの主な出来事】

【数字で見る！国際子ども図書館】

【国際子ども図書館利用案内】

活動報告

(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

1. 児童書専門図書館としての活動

国際子ども図書館は、児童書の専門図書館として国内外の児童書及び関連資料を広範に収集・保存・提供している。また、「[国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画 2015](#)」に基づき、子どもの読書に関する情報発信、人材育成及びネットワーク構築、情報発信等を行っている。平成 28 年度は、チェコ語の児童書の重点的な収集を行ったほか、平成 27 年 9 月に開室した児童書研究資料室の安定的な運営と充実を図った。

1.1 資料・情報センターとしての機能

(1) 蔵書構築

国内刊行児童書を納本制度により収集したほか、未収の国内刊行児童書（佐々木邦（編）『村の少年団』等）、国内外の児童書関連資料、児童サービス用資料、学校図書館セット貸出用資料、主要児童雑誌の欠号等を収集した。

外国刊行児童書については、*Jack and the bean-stalk : English hexameters* (Hallam Tennyson 著、Randolph Caldecott 絵) などを含む欧米や中国、韓国等資料のほか、平成 27 年度に作成した選書用ブックリストに基づくチェコ語の児童書を重点的に収集した。また、平成 28 年度はオーストラリア・ニュージーランドの児童書・関連書について今田由香氏に調査及び選書用ブックリストの作成を依頼した。調査報告とブックリストは国際子ども図書館ホームページで公開している (<http://www.kodomo.go.jp/info/foreign/index.html>)。また、ベトナム国立図書館との協力協定による児童書の収集を行った。加えて、ボローニャ国際児童図書展事務局からボローニャ国際児童図書賞応募作品 352 冊の寄贈を受けた。

今年度の増加数については、日本語の図書が約 11,000 点、外国語の図書が約 3,500 点、国内雑誌が約 80 タイトル、非図書資料が約 500 点であった。

児童書のデジタル化については、主として 1968 年以前に刊行された国内刊行図書及び 1970 年までに刊行された国内雑誌がデジタル化済みである。今年度は 1970 年以前に刊行された国内雑誌の欠号補充分約 70 タイトル約 300 冊分をデジタル化した。

なお、資料の破損・劣化対策として、年間 120 冊を補修した。

(2) 情報サービス

○国立国会図書館サーチにおける児童書総合目録の提供

国立国会図書館サーチを通じ、国立国会図書館（国際子ども図書館を含む。）、大阪府立中央図書館国際児童文学館、神奈川近代文学館、三康文化研究所附属三康図書館、日本近代文学館、東京都立多摩図書館、梅花女子大学図書館、白百合女子大学図書館及び白百合女子大学児童文化研究センターが所蔵する児童書・関連資料の所蔵情報を一元的に検索できる児童書総合目録を提供している。児童書に限定した検索、都道府県立及び政令指定都市立図書館蔵書・各種デジタル資料・レファレンス情報等の同時検索が可能である。本年度は、東京都立多摩図書館及び大阪府立中央図書館国際児童文学館のデータ更新を行った。

※<http://iss.ndl.go.jp/>

○国立国会図書館蔵書検索・申込システム（NDL-OPAC）への目録データ追加等

国際子ども図書館が整理したアジア諸言語の新規受入児童書資料（朝鮮語 187 件、アラビア語 107 件、ペルシア語 283 件、中国語 665 件、ヘブライ語 18 件、ウズベク語 6 件、インドネシア語 24 件、タイ語 445 件）の目録データを追加したほか、児童書カード目録等からの遡及入力（アラビア語 23 件、ヘブライ語 1 件、タイ語 1 件）を行った。

児童書専門付加情報として、日本図書館協会から提供された『選定図書目録』平成 26 年分の内容解説データ及び日本児童図書出版協会から提供された『児童図書総目録』の内容解説データ、計 3,346 件を投入した。

※<https://ndlopac.ndl.go.jp/>

○国立国会図書館リサーチ・ナビへの「調べ案内」新規作成・更新

国際子ども図書館が所蔵する資料に関する「調べ案内」の新規作成を 4 件、更新を 15 件行った。

※<http://rnaui.ndl.go.jp/rnaui/>

○レファレンス協同データベースへの事例提供

国際子ども図書館が回答したレファレンス事例 58 件を追加し、平成 29 年 3 月末現在、525 件を提供している。

※<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>

○外国語に翻訳刊行された日本の児童書情報

日本の児童書の海外における翻訳出版情報のデータベースである。国立国会図書館職員が調べものに有用であると判断した各種情報源を国立国会図書館ホームページで紹介するリサーチ・ナビ内で提供している。平成 28 年度は 700 件のデータを追加し、平成 29 年 3 月末現在の収録データは 4,682 件となった。

※<http://rnaui.ndl.go.jp/childbook/honyaku.php>

(3) 利用者サービス

○来館利用サービス

児童書研究資料室には、約 4 万冊の児童書・児童文学に関する参考図書・研究書等を排架している。また、利用者用端末を配備し、各端末から資料検索、書庫資料の閲覧申込み・複写申込書の作成のほか、デジタル化資料等電子情報の閲覧が可能である。平成 29 年 1 月の端末リプレースに際し、視覚障害者用の機器・ソフトウェアを備えた端末 1 台の新設を含めた利用者用端末の増設を行い、端末台数は 31 台となった。平成 28 年度の児童書研究資料室の利用者数は 9,631 名、閲覧点数は 24,534 点、複写申込は 5,184 件であった。

○遠隔サービス

国際子ども図書館所蔵資料の遠隔複写、図書館間貸出しの申込み及び蔵書に関する問合せに回答するレファレンスサービスを行っている。回答事例の一部はレファレンス協同データベースで紹介している。平成 28 年度の遠隔複写申込みは 1,032 件、図書館間貸出数は 228 点、文書によるレファレンス回答処理は 119 件、電話によるレファレンス回答処理は 2,033 件である。

また、IFLA（国際図書館連盟）の「絵本で世界を知ろうプロジェクト」から寄贈された世界 39 カ国・地域の絵本 325 冊及び付属資料を、展示会セット「絵本で知る世界の国々—IFLA からのおくりもの」として、国内及びアジア・オセアニア地域の図書館等に貸し出している。平成 28 年度は国内 4 機関に貸し出した。

(4) 国会サービス及び行政・司法の各部門に対するサービス

○国会サービス

調査及び立法考査局を窓口として、資料の閲覧・貸出し・複写・レファレンス等を行っている。平成 28 年度は 128 点を出納した。

○行政・司法の各部門に対するサービス

国際子ども図書館では東京本館・関西館と同様に、各府省庁及び最高裁判所に設置されている支部図書館 27 館に対して、資料の貸出し等を行っている。平成 28 年度の相互貸出数は 38 点である。

1.2 子どもの読書活動推進の支援

(1) 子どもの読書に関する情報発信の強化及びネットワークの構築

○「子どもと本に関するニュース」

ホームページの「子どもと本に関するニュース」で、国内外の主な児童文学賞、子どもの読書と図書館に関するニュース等を紹介している。平成 28 年度には国内外合わせて 101 件の情報を掲載した。

※<http://www.kodomo.go.jp/info/index.html>

(2) 人材育成支援

①国際子ども図書館が行った研修

○平成 28 年度図書館情報学実習生の受入れ

公募により選考した、愛知淑徳大学と相模女子大学の実習生計 2 名を 9 月 1 日から 8 日にかけて受け入れ、カウンター業務、選書、装備・排架、レファレンスサービス、読み聞かせ等の実習を行った。

○児童文学連続講座「子どもに本を手渡すために—児童文学基礎講座」

11月7日、8日に児童サービスに従事する図書館員等を対象に、児童文学に関する基礎知識の修得を目的として実施し、73名が受講した。講義の演題及び講師は次のとおりである。



- 児童文学とは何かというとても難しい問題
川端 有子（日本女子大学教授）
- 日本の児童文学—「声」の時代、「声」のわかれ
宮川 健郎（武蔵野大学教授）
- 英米を中心とした外国の児童文学—その歴史と概要
川端 有子
- 絵本を学ぶ、その序章から—絵本とは何か
石井 光恵（日本女子大学教授、国立国会図書館客員調査員）
- 国立国会図書館が提供するデータベース紹介—子どもの本を探すには
高野 哲（資料情報課情報サービス係長）

※<http://www.kodomo.go.jp/study/chair/outline/28.html>

○講師派遣

平成28年度に、公共図書館、図書館関係団体等の依頼により、5件の研究会・研修会等の講師として、延べ5名の職員を派遣した。

派遣先：青山学院大学、第40回全国学校図書館研究大会神戸大会、神奈川県立図書館、埼玉県図書館協会、我孫子市民図書館

②他機関との連携で行った研修等

○児童図書館員養成専門講座

日本図書館協会が公共図書館などの専門職員を対象に実施している、第36回児童図書館員養成専門講座の一科目「児童書奉仕の実際（1）レファレンス」を共催で7月1日に実施し、18名が受講した。講師は浅沼さゆ子氏（東京都立多摩図書館）であった。

○日本図書館協会学校図書館部会夏季研究会

8月5日、6日に日本図書館協会学校図書館部会との共催で、日本図書館協会学校図書館部会会員等を対象とする45回夏季研究集会を実施し、113名が参加した。当館からは、学校図書館向けの新しいサービス動向等、当館活動の紹介等を行った。

○「図書館を使った調べる学習」指導者養成講座

10月3日に図書館振興財団との共催で、学校関係者及び公共図書館関係者等を対象として「広めよう！図書館を使った調べる学習～指導者育成のための体験講座～」を実施し、20名が受講した。講師は蔵元和子氏（読書活動研究者）、丸山光枝氏（元清泉女子大学講師）であった。当館からは、館の概要説明を行った。

○日本図書館協会短大・高専部会研修会

11月22日に日本図書館協会短大・高専部会の会員対象ワークショップ（20名が参加）の一環として、企画協力課職員が当館見学案内のほか関連内容の質疑を受け付けた。

(3) 調査研究

○学校図書館と公共図書館との連携に関するインタビュー調査

2月24日から3月23日にかけて計4名の職員が杉並区、市川市、白井市、横浜市、茅野市、金沢市、豊中市、箕面市の計8自治体における教育センター、市立図書館、小中学校等を訪問し、学校図書館の現況並びに学校図書館及び公共図書館間の連携の実態についてインタビュー調査を行った。浜松市は訪問できなかったため、質問票への回答を依頼し、協力を得た。

○イギリスにおけるブックフェア及び読書活動推進に関する調査

平成29年3月12日から17日までの期間でイギリスへ職員を派遣し、イギリスの児童書関連資料を収集・保存する施設である Seven Stories: The National Centre for Children's Books（セブン・ストーリーズ）、ロンドン・ブックフェア、British Library（英国図書館）の視察を行い、イギリスにおける児童書や児童文学作家・画家、読書推進活動に関する情報の収集を行った。



Seven Stories

(4) 学校図書館支援

○学校図書館セット貸出し

「国際理解」をテーマとする児童書等約50冊を1セットとし、全国の学校図書館へ貸し出している。ホームページに全17種類の各セットの資料のリストや解題を掲載し、セットを使った学校図書館活動や学習・読書活動の事例を全国から集め紹介している。平成28年度は202校に計9,804冊の資料を貸し出した。そのうち、東日本大震災の被災地支援として、被災地域の学校48校に計2,343冊を往復送料無料で貸し出した。子どもたちが推薦する本を紹介した手紙を読書郵便として同封し、次に利用する学校72校へ送付した。

※<http://www.kodomo.go.jp/promote/school/rent/index.html>

1.3 国際的な交流活動

○AFCC2016への職員派遣

5月24日から27日にかけてシンガポール国立図書館で開催されたアジア児童コンテンツフェスティバル（AFCC）等に本吉理彦館長他1名が参加し、当館の活動を紹介するとともに、おはなし会実演等を行った。

○IBBY ニュージーランド大会への職員派遣

8月18日から21日にかけてオークランドで開催された第35回国際児童図書評議会（IBBY）世界大会に職員1名が参加し、分科会において当館の「子どもと本をつなぐ活動」について発表

した。

○2016IASL 東京大会への協力

国際学校図書館協会（International Association of School Librarianship: IASL）第 45 回年次大会の組織委員会、運営委員会、イベント委員会に職員が参加し、企画・運営に協力した。また、8 月 22 日から 26 日にかけて、東京の明治大学・駿河台キャンパスにおいて開催された大会には 5 名の職員が参加し、基調講演、分科会等に出席した。会場に設けられた展示コーナーでは、当館パンフレットや各種チラシ類による当館サービスの説明を行ったほか、日本の児童書を展示して紹介した。8 月 24 日には学校図書館ツアーの一環として、外国人 16 名、日本人 31 名計 47 名が当館を訪問した。



2. 子どもと本のふれあいの場としての活動

子どもたちが図書館や読書に親しむきっかけとなるよう、国内外の児童書を提供すると共に、各種イベントや見学、情報提供等を行った。

2.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス

子どものへや・世界を知るへやは、主に小学生以下を対象とする絵本、読み物、知識の本などを開架し、年齢に応じた本の紹介等を行っている。前年度末の靴脱ぎスペース設置や出入口の位置変更等により、入室者数は約 1.7 倍となった。

前年度 2 月に開室した中高生向けの調べものの部屋では、各種事典や調べもの体験プログラムでの利用資料等約 1,500 点を新たに購入し、開架資料は約 1 万点となった。

○子どものおはなし会

毎週土曜日の午後 2 時（4 歳～小学 1 年生）及び午後 3 時（小学 2 年生以上）からおはなしのへやで実施した（夏休み期間を除く）。職員が、ストーリーテリングと絵本の読み聞かせ等を行っている。平成 28 年度は計 87 回実施し、662 名が参加した。

○ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会

6 か月以上 4 歳未満の子どもと保護者を対象として、毎月第 2 水曜日午前 11 時からおはなしのへやで実施した。職員が、参加者の年齢に合わせ、絵本の読み聞かせとわらべうたを組み合わせで行っている。平成 28 年度は合計 11 回実施し、149 組 324 名が参加した。

○夏休み読書キャンペーン

夏休みに子どもが様々な本に出会うための企画として、本を読んで問題に答える、初級編・中級編・上級編の3種類のクイズを用意し、子どものへやで実施した。1,826名の子どもが参加した。

○夏休み親子図書館見学ツアー

7月21日、28日、8月4日、18日、25日に午後2時から45分間、小学生とその保護者向けの親子図書館見学ツアーを行った。書庫を含むレンガ棟及びアーチ棟内の施設を、通常のツアーより平易な表現を用いて案内した。計68名の参加があった。

○夏休み小学生向けおはなし会

7月21日、28日、8月4日、18日、25日の午後3時から、夏休み親子図書館見学ツアー終了後に、自由参加のおはなし会を実施した。計87名の参加があった。

○子どものおたのしみ会

通常のおはなし会の特別版として、5月5日に、大型絵本の読み聞かせを含む「こどもの日おたのしみ会」を2回実施し、計44名が参加した。11月20日には、上野動物園の協力により「冬のおたのしみ会」を実施し、45名が参加した。テーマを「カバ」とし、当館職員がカバを題材とした絵本の読み聞かせを行った後、上野動物園の飼育員さんが写真や動画、カバのエサなどを見せながらカバの生態について解説した。また、当館が作成したカバに関するブックリストを、おたのしみ会参加者のほか上野動物園来園者にも配布した。



○幼稚園・保育園・小学校向けの見学

幼稚園・保育園にはおはなし会、小学生向けには館内見学とおはなし会を合わせたプログラム、特別支援学校には児童に合わせた手遊びやわらべうたを含むおはなし会プログラムでそれぞれ行った。平成28年度は、計38件880名の参加があった。

○中高生向けの見学・調べもの体験プログラム

従来の見学のほか、平成28年度から新たに中高生が、短時間で“図書館における調べもの”を体験できる、「調べもの体験プログラム」を開始した。中学生向けの3コース、高校生向けの3コース、計6つのコースがある。平成28年度は館内見学及び調べもの体験プログラム合わせて、計38件451名の参加があった。

※<http://www.kodomo.go.jp/use/tour/youth.html>

2.2 子どものための連携イベント

上野公園内に所在する近隣文化機関との連携により、読書に親しむためのさまざまなきっかけとして、子ども向けのイベントを実施した。

○うえの！ふしぎ発見 絵本部

7月24日、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団東京都美術館、同アーツカウンシル東京及び国立大学法人東京藝術大学との共催により、平成28年度「Museum Start あいうえのプロジェクト」の一環として、「ブラジルの絵本作家 ホジェル・メロさんといっしょに作る — 「イメージの詩」」と題した子ども向けワークショップを開催し、小学校2年生から高校2年生までの子ども及びその保護者31名が参加した。



また、7月28日には同タイトルの子どもの向けワークショップを福島県公共図書館協会との共催により南相馬市立中央図書館で開催し、福島県南相馬市立石神第一小学校の4年生から6年生までの9名が参加した。

○子どものための音楽会

10月16日、公益財団法人東京都歴史文化財団東京文化会館との共催で、「まちなかコンサート～芸術の秋、音楽さんぽ～」の一環として行った。午後1時及び午後3時から各40分行い、計386名が参加した。子どもが親しみやすい曲を選んで弦楽四重奏の演奏を行った。演奏終了後、国際子ども図書館職員が音楽や楽器についての児童書5冊を紹介した。



○子どものための絵本と音楽の会

3月26日、東京・春・音楽祭実行委員会との共催により行った。絵本『ぐるんぱのようちえん』の朗読に合わせて、作品のイメージで作曲・編曲した曲をコントラバスとピアノで演奏した。午後1時30分及び午後3時から各30分行い、計184名が参加した。

○「みつめて、ならべて、マイ・ミュージアム・ボックス～上野の杜～」

2017年3月19日、上野「文化の杜」新構想実行委員会の依頼により、イベント実施に協力した。運営はアートコミュニケータ東京のスタッフが行い、当館は、児童サービス課職員が、テーマとなった『キュッパのはくぶつかん』の絵本を読み聞かせ、作業の間は企画協力課職員が保護者を連れて当館内を案内した。子どもたちは、東京国立博物館の中庭で落ちている植物

や石などを広げ、それを箱に並べて自分だけの標本箱を製作した。小学生と保護者 21 組、42 名が参加した。

2.3 子ども向けの情報発信

ウェブ上の子どもと本のふれあいの場として公開する「国立国会図書館キッズページ」の「よんでみる？」のコーナーにコンテンツを追加した。

※<http://www.kodomo.go.jp/kids/index.html>

3. 子どもの本のミュージアムとしての活動

児童書の持つ魅力を広く一般に紹介することを目的に、児童書に関する展示会を開催している。国際子ども図書館が主催する企画展示の他、日本国際児童図書評議会（JBBY）など他機関から資料を借用して実施する巡回展示、共催による展示などがある。平成 28 年度は、前年度末の企画展示「現実へのまなざし、夢へのつばさ」を引き続き実施した後、8 月に「世界のバリアフリー絵本展 2015」（JBBY）、10 月に企画展示「こんにちは！イタリア」展、1 月に「子どもを健やかに育てる本 2016」（厚生労働省と共催）を実施した。

3.1 館内展示

○現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀

レンガ棟 3 階本のミュージアムにおいて、平成 28 年 3 月 22 日から 7 月 24 日まで計 101 日開催し、入場者数は延べ 14,170 人（1 日平均 140 人）であった。当館では平成 12 年に開館記念展示会「子どもの本・翻訳の歩み展」を開催し、明治期から 1960 年代までの翻訳児童文学を時系列で紹介した。今回は、その後続企画として、1970 年代以降に邦訳された翻訳児童文学約 300 冊を展示した。会期最終週の 7 月 20 日には、皇后陛下の御来臨があった。またスタッフによるギャラリートークを計 4 回開催し、参加者は 71 名であった。



※http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9965339_po_geppo1605.pdf?contentNo=1#page=12

（国立国会図書館月報 661 号中の展示会解説記事へ移動します。）

○こんにちは！イタリアー子どもの本のファンタジスタたち

レンガ棟3階本のミュージアムにおいて、10月25日から12月25日まで計49日開催し、入場者数は延べ8,365人（1日平均171人）であった。世界の国・地域をテーマとした展示会の一環として、当館所蔵資料のイタリアの児童書から、イタリア・アンデルセン賞受賞作家58名の作品を中心とした1982年から2015年までの約280冊を展示した。またスタッフによるギャラリートークを計18回開催し、参加者は479名であった。



○世界のバリアフリー絵本展 2015ー国際児童図書評議会 2015年推薦図書展

レンガ棟3階本のミュージアムにおいて、8月16日から9月4日まで計17日開催し、入場者数は3,129名であった。資料は国際児童図書評議会（IBBY）の日本支部である日本国際児童図書評議会（JBBY）から借用し、障害のある子どもたちも楽しむことができるように作成されたバリアフリー図書の中から、IBBY障害児図書資料センターが2015年に選定した世界21か国の50作品を手にとって見られるよう展示した。会期の第一週目の8月16日には、文仁親王妃紀子殿下の御来臨があった。



○子どもを健やかに育てる本 2016ー厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）

レンガ棟3階本のミュージアムにおいて、平成29年1月24日から2月19日まで計22日開催し、入場者数は2,690名であった。厚生労働省雇用均等・児童家庭局との共催で、平成27年度に厚生労働省社会保障審議会が推薦した図書38作品を手にとって見られるよう展示した。

○資料室の小展示

児童書研究資料室では、利用者の興味・関心を深める一助とするため、当館開催展示会に関連した小展示を2回実施した。また、当館所蔵外国刊行資料から、オリンピック開催にちなんだ「スポーツの本」と、海外の児童文学賞受賞作品をテーマとして小展示を2回、調べものに役立つ小展示を1回実施したほか、平成27年に日本国内の主要な児童文学賞を受賞した作品及び読書活動推進コーナーにおいて児童サービスの基本資料を通年で展示した。



○児童書ギャラリーの小展示

児童書ギャラリーでは、明治から現代までの児童文学史と絵本史の流れにより親しむことを目的に、特定の作家や画家に関する小展示を「作家・画家コーナー」で行っている。平成28

年度は「赤羽末吉」(前半)と「瀬川康男」(後半)を紹介した。

○子どものへや・調べものの部屋の小展示

子どものへやでは季節や子どもの興味を引くテーマで小展示を行い、子どもたちが何度訪れても楽しめる工夫をしている。平成 28 年度は 7 回行った。平成 28 年 2 月に開室した調べものの部屋では、毎月テーマを決め、入口のスタンドを利用して 10 冊程度の本を紹介するウェルカムミニ展示を開始した。また、近隣の施設で行われている展示会に合わせたテーマで関連小展示を行い、来室者の関心を引く工夫を行った。ウェルカムミニ展示は 4 回、関連小展示は 7 回行った。

3.2 電子展示会

○日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み(英語版)

インターネットで公開している電子展示会「日本の子どもの文学」の英語版を作成した。全体で約 450 点の資料、20 件のコラム、約 400 点の画像を掲載している。平成 29 年 4 月 21 日公開。

※<http://www.kodomo.go.jp/jcl/e/index.html>

4. 内外諸機関との連携・協力、広報活動等

国際子ども図書館は、国内外の図書館関係機関又は団体と密接に協力しながら、主に「子どもに本を手渡す大人」への支援を通じて、子どもの読書活動を推進している。平成 28 年度は、各種団体との連携により、ブラジルの絵本作家、ドイツの児童書研究者、アメリカの絵本作家を当館に招き、講演会や子ども向けワークショップを実施した。加えて、密接に連携を推進するため、関係機関との懇談・交流の場を設け意見交換・情報共有を行った。

4.1 講演会

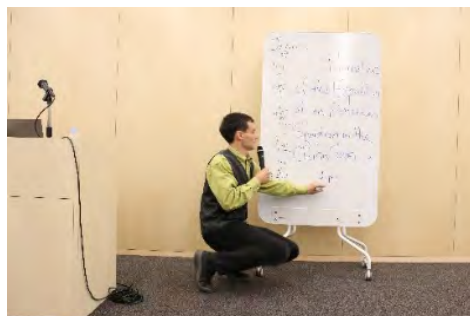
○講演会「私が子ども時代に出会った本—中島京子」

4 月 23 日、日本ペンクラブとの共催により作家の中島京子氏の講演会を開催し、79 名が参加した。講師は、自ら撮影した書影画像を示しながら、幼少期、小学校、中学校時代に読み、影響を受けた本を紹介し、それらにまつわる読書体験を語った。



○上野の森親子フェスタ講演会

5月5日、上野の森親子フェスタ運営委員会との共催により、上野の森親子フェスタ 2016 の一環として行った。さくまゆみこ氏（翻訳家）によるブックトーク「子どもの本を窓にして戦争と平和を考える」、アーサー・ビナード氏（詩人）による講演「子どもの本をとおして平和を考えるー戦争っておもしろい？平和ってつままない？」を実施し、参加者は139名であった。



○ホジェル・メロ氏講演会

2014年度の国際アンデルセン賞画家賞を受賞したブラジルの画家・絵本作家であるホジェル・メロ氏を招へいし、下記の2か所で講演会「ブラジルの絵本作家ホジェル・メロー 本、それは差異の迷宮」を実施した。福島県における講演会は、福島県公共図書館協会との共同により行った。合計209名の参加者を得た。



東京講演会 7月23日 国際子ども図書館 89名

福島講演会 7月27日 福島県立図書館 120名

○講演会「翻訳という魔法のメガネー海外児童文学受容の50年」

展示会「現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀」関連催物として、6月18日に講演会「翻訳という魔法のメガネー海外児童文学受容の50年」（講師：川端有子氏）をアーチ棟1階研修室1において開催し、参加者は73名であった。



○講演会「いま、イタリアの子どもの本は？」

11月5日、日本ペンクラブとの共催で、イタリア文学翻訳家の吉富文氏による講演会を開催した。1861年のイタリア統一国家成立以降 1960年代までのイタリア児童文学の歴史を、代表的な作家の経歴や作風について、その時代背景とともに紹介した後、現代のイタリア児童文学について、その特徴的なモチーフ（「家族像の変容」、「病気、死」、「異文化共生、移民」（ディスレクシア等の）「障害」等）を取り上げながら、現代イタリア児童文学の主要な作家を、豊富な画像（書影）とともに紹介した。70名が参加した。



○ベッティーナ・キュンマリング-マイバウアー博士講演会

9月3日、キュンマリング-マイバウアー博士（ドイツ・エバーハルト・カール大学テュービンゲン教授）の講演会「ヨーロッパにおける近年の絵本をめぐる動向—赤ちゃん絵本から大人向け絵本まで」を開催した。68名の参加があった。



○バーバラ・マクリントック氏講演会

11月19日、一般財団法人出版文化産業振興財団（JPIC）との共催で、米国の絵本作家のバーバラ・マクリントック氏の講演会「過去と未来をつなぐーバーバラ・マクリントックえほんの世界」を開催した。116名の参加があった。



4.2 広報活動

○上野ミュージアムウィーク 2016 上野公園建物ツアー

上野ミュージアムウィークは、国際博物館の日である5月18日を中心とする前後1週間、上野の文化施設が無料入館日を設定する等のイベントを行う期間である。当該期間中の5月21日、国立科学博物館が主催する記念イベント「上野公園建物ツアー」に協力し、見学先としてツアー参加者を受け入れた。計28名が参加した。

○教員のための博物館の日

7月29日、国立科学博物館で行われた教員のための科学博物館の日に、ブースを出展し、学校教員50名に対して国際子ども図書館の事業や活動を紹介した。



○図書館総合展出展

11月8～10日にパシフィコ横浜で行われた第18回図書館総合展において、国際子ども図書館のリニューアルについてミニプレゼンを行い、紹介パンフレット231部を配布した。



○展示のFacebook開設

平成29年3月から、Facebookページ「[国際子ども図書館の展示](#)」を開設し、国際子ども図書館で開催する展示会の情報を発信している。

4.3 関係者会議

○平成28年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会

7月7日、国際子ども図書館研修室1を会場とし、児童サービスをテーマとして開催した。都道府県立・政令指定都市立図書館長等77名が参加した。当館側は国立国会図書館長、部局長ほか計13名が参加した。事前に参加館に対して児童サービスに関するアンケートを実施し、集計結果を会の中で報告した。

○平成28年度国際子ども図書館連絡会議

平成29年2月13日に、「平成28年度国際子ども図書館連絡会議」を開催した。大阪国際児童文学振興財団等14機関・団体から20名が参加した。

国際子ども図書館の平成26年度以降の活動について報告し、平成29年度の計画等について国際子ども図書館と協力関係にある諸機関から意見聴取等を行った。

4.4 見学・案内

○議会関係者向けの案内

平成28年度は、国会議員（前・元議員を含む）4件6人、地方自治体・地方議会関係者3件23人の案内を行った。

○一般向けの案内

個人向けのガイドツアーを毎週火・木曜日に行っているほか、団体向けの見学を行っている。平成28年度は、個人向け86件676名、団体向け134件2,266名の参加があった。

○図書館向けの案内

当館では、一般の図書館職員や小中学校の図書室司書等、図書館関係者向けの見学案内を行っている。平成28年度は、計29件287名の参加があった。

○外国人向けの案内

外国公館関係者、海外の図書館関係者等を含む、外国人向けの見学案内については、平成28年度に19件147名の参加があった。

4.5 刊行物

○『国際子ども図書館の窓』第16号（2016年9月）

※http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10198325_po_2016-mado.pdf?contentNo=1&alternativeNo=

○国際子ども図書館メールマガジン 103～122号（2016年4月～2017年3月）

※<http://www.kodomo.go.jp/about/mailmagazine/2016/index.html>

平成 28 年 4 月から 29 年 3 月までの主なできごと

平成 28 年

- 4 月 23 日 講演会「私が子ども時代に出会った本—中島京子」
- 5 月 5 日 上野の森親子フェスタ講演会（さくまゆみこ氏、アーサー・ビナード氏）
- 5 月 5 日 子どものためのこどもの日おたのしみ会
- 6 月 18 日 リニューアル記念展示関連講演会（川端有子氏）
- 6 月 30 日 レンガ棟保全改修工事完了
- 7 月 19 日 夏休み読書キャンペーン 2016（～9 月 4 日）
- 7 月 20 日 皇后陛下、展示会「現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀」御鑑賞
- 7 月 21 日 夏休み小学生向けおはなし会（7 月 21 日、28 日、8 月 4 日、18 日、25 日とも）
夏休み親子図書館見学ツアー（7 月 21 日、28 日、8 月 4 日、18 日、25 日とも）
- 7 月 23 日 講演会「ブラジルの絵本作家 ホジェル・メロ — 本、それは差異の迷宮」
- 7 月 24 日 ワークショップ「ブラジルの絵本作家 ホジェル・メロさんといっしょに作る — 『イメージの詩』」
- 7 月 27 日 講演会「ブラジルの絵本作家 ホジェル・メロ — 本、それは差異の迷宮」（福島県立図書館）
- 7 月 28 日 ワークショップ「ブラジルの絵本作家 ホジェル・メロさんといっしょに作る — 『イメージの詩』」（福島県南相馬市立中央図書館）
- 7 月 29 日 「教員のための博物館の日」に参加
- 8 月 16 日 展示会「世界のバリアフリー絵本展 2015—国際児童図書評議会 2015 年推薦図書展」（～9 月 4 日）
文仁親王妃紀子殿下の展示会御鑑賞
- 8 月 22 日 国際学校図書館協会東京大会（～26 日）
- 9 月 3 日 講演会「ヨーロッパにおける近年の絵本をめぐる動向—赤ちゃん絵本から大人向け絵本まで」（マイパウアー氏）
- 10 月 16 日 子どものための音楽会
- 10 月 25 日 展示会「こんにちは！イタリア—子どもの本のファンタジスタたち」（～12 月 25 日）
- 11 月 5 日 講演会「いま、イタリアの子どもの本は？～国際子ども図書館展示会『こんにちは！イタリア—子どもの本のファンタジスタたち』 関連講演会」
- 11 月 7 日 国際子ども図書館児童文学連続講座「子どもに本を手渡すために—児童文学基礎講座」（～8 日）
- 11 月 8 日 第 18 回図書館総合展に出展（～10 日）
- 11 月 19 日 講演会「過去と未来をつなぐ バーバラ・マクリントックえほんの世界」
- 11 月 20 日 冬のお楽しみ会

平成 29 年

- 1 月 24 日 展示会「子どもを健やかに育てる本 2016—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」（～2 月 19 日）
- 2 月 13 日 国際子ども図書館連絡会議
- 3 月 26 日 子どものための絵本と音楽の会『ぐるんぱのようちえん』

数字で見る！国際子ども図書館

平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

(1) 国際子ども図書館所蔵統計（平成 29 年 3 月 31 日現在）

資料区分			所蔵数	
資料 情報課	図書 (単位：点)	日本語 (*1)	291,240	
		外国語 (*2)	中国語・朝鮮語資料	20,644
			アジア言語資料 (中国語・朝鮮語資料以外)	10,040
			欧米言語資料	70,022
			計	391,889
		逐次刊行物 (単位：タイトル、 カッコ内は点)	国内雑誌	1,733 (92,302)
	外国雑誌		185 (9,931)	
	計		1,918	
	非図書資料 (単位：点)	マイクロ資料 (マイクロフィルム、マイクロフィッシュ等)	38,000	
		映像資料 (ビデオディスク、ビデオカセット等)	8,304	
		録音資料 (オーディオディスク、カセットテープ等) (*3)	2,798	
		機械可読資料 (光ディスク等)	6,592	
		楽譜資料	283	
		カード式資料 (カルタ等)	11,400	
		静止画資料 (紙芝居等)	21,123	
		点字・大活字資料 (*4)	64	
		計	88,564	
		開架閲覧用資料 (単位：点) (*5)	児童書ギャラリー	16,830 1,924
	貸出用資料 (単位：点)		365	
	児童 サービス課	開架閲覧用資料 (単位：点)		28,655
子どものへや・世界を知るへや			18,325	
		調べものの部屋	10,300	
貸出用資料 (単位：点)			5,570	

- *1 児童書関連書（2006 年 9 月以前選書分 12,342 点）を含む
- *2 児童書関連書を含む。言語別の所蔵数の計は業務基盤システムによる採取のため、外国語の所蔵数と一致しない場合がある。
- *3 教師用指導書のみ
- *4 点字教科書のみ
- *5 日本語の児童書関連書（2006 年 10 月以降選書分）と児童関連誌、児童書ギャラリー用資料

(2) 来館者統計

開館日 (日)	285
来館者 (人)	121,790
(うち中学生以下)	(28,125)

(4) 資料出納統計

国会サービス (点)	128
児童書研究資料室 (点)	24,534

(3) 各室利用統計

児童書研究資料室	開室日 (日)	285
	利用者 (人)	9,631
子どものへや・ 世界を知るへや	開室日 (日)	285
	利用者 (人)	92,710
児童書ギャラリー	開室日 (日)	47
	利用者 (人)	5,927
調べものの部屋	開室日 (日)	285
	利用者 (人)	43,419

(5) 複写サービス統計

(対象：国会サービス)

紙	件	4
	枚	61
プリントアウト	件	0
	枚	0
マイクロ	件	0
	フィルム (コマ)	0
	フィッシュ (枚)	0

(対象：一般)

紙	件	5,609
	枚	32,688
プリントアウト	件	607
	枚	17,545
マイクロ	件	0
	フィルム (コマ)	0
	フィッシュ (枚)	0

(6) 資料貸出統計

(対象：行政・司法各部門)

相互貸出し (点)	38
(対象：一般)	
図書館間貸出し	点 228
学校図書館セット貸出し	件 202
	点 9,804
展示会出品資料貸出し	件 9
	点 1,312

(7) レファレンスサービス統計①

(対象：一般)

文書回答	処理文書 (通)	69
	処理 (件)	119
電話回答	受理 (件)	1,598
	(うち 18 歳未満)	(1)
	処理 (件)	1,977
	(うち 18 歳未満)	(3)
口頭回答	受理 (件)	12,783
	(うち 18 歳未満)	(1,249)
	処理 (件)	14,760
	(うち 18 歳未満)	(1,509)

(7) レファレンスサービス統計②

(対象：国会サービス)

(対象：行政・司法各部門)

文書回答	処理文書（通）	0
	処理（件）	0
電話回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
口頭回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
調査局経由※	処理（件）	0

文書回答	処理文書（通）	0
	処理（件）	0
電話回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
口頭回答	受理（件）	0
	処理（件）	0

※調査及び立法考査局で受付後、
回付されたもの。

(8) 参観・見学統計

国会議員、前・元議員		件	4
		人	6
その他の国会関係者		件	0
		人	0
行政・司法		件	1
		人	5
国内	個人	件	86
		人	676
		（うち18歳未満）	(42)
	団体	件	134
		人	2,266
		（うち18歳未満）	(1,334)
	図書館関係者	件	29
		人	287
		（うち18歳未満）	(0)
	地方自治体・地方議会関係者	件	3
		人	23
		（うち18歳未満）	(0)
海外（外国公館関係者を含む）		件	19
		人	147
		（うち18歳未満）	(29)

(9) 国際子ども図書館ホームページアクセス統計

http://www.kodomo.go.jp/以下の全コンテンツ	ページビュー（件）	2,496,325
トップページ	トップページへのアクセス（件）	326,735

国際子ども図書館利用案内

国際子ども図書館ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

電話 03 (3827) 2053 (代表) 03 (3827) 2069 (録音による利用案内)

★来館利用 ホームページ > 利用案内

問合せ先 : 企画協力課

開館時間 : 9:30~17:00 資料請求 : 9:30~16:30 (児童書研究資料室)

複写受付 : 10:00~16:00 (後日郵送複写のみ 16:30 まで)

休館日 : 月曜日、国民の祝日・休日 (こどもの日は開館)、年末年始、毎月第3水曜日

所蔵資料 : 国内刊行児童図書・雑誌、外国語の児童図書・雑誌、児童書関連図書・雑誌等

※資料の利用は館内のみ。館外への帯出はできません。

★レファレンス・資料案内 ホームページ > 本・資料を探す > レファレンス・サービス

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

申込方法 : 来館、文書 (図書館経由)、電話

※児童書・児童文学、児童図書館活動等に関する問合せに答えます。

※資料を直接確認しなければならないなど時間を要する調査及び聞き間違いが生じやすい外国語文献についてのレファレンスなどは文書で申し込んでください。

★資料の複写 (有料) ホームページ > 利用案内 > 複写サービス

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

申込方法 : 来館、NDL-OPAC 経由 (登録利用者・機関のみ)

郵送 (登録利用者・機関のみ)

★資料の図書館間貸出し ホームページ > 利用案内 > 図書館間貸出し

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

※「図書館間貸出制度」に加入している図書館のみ利用できます。

※雑誌や昭和25年以前刊行の図書など貸出しができない資料もあります。

★見学・体験 (調べもの体験プログラム) ホームページ > 利用案内 > 見学・体験

問合せ先 : 企画協力課広報係 (一般向け)

児童サービス課 (幼稚園・保育園・小学生向け・中高生向け)

★学校図書館セット貸出し ホームページ > 子どもの読書活動推進 >

学校・学校図書館へのサービス > 学校図書館セット貸出し

問合せ先 : 児童サービス課児童サービス企画係

国際子ども図書館の窓 第17号 2017.9

発行所 国立国会図書館 2017年9月29日発行
編集責任者 本吉 理彦
〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49
電話 03 (3827) 2053 (代表) FAX 03 (3827) 2043

本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、
事前に国際子ども図書館企画協力課広報係に連絡してください。

The Window

the journal of the International Library of Children's Literature

No.017 September 2017

Contents

【ILCL activity report】	4
【List of events and activities: April 2016 - March 2017】	19
【ILCL in figures】	20
【ILCL user guide】	23

International Library of Children's Literature,
National Diet Library,
Tokyo